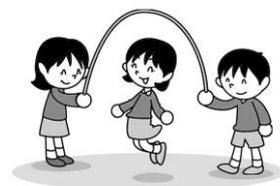


特別支援教育について

豊崎小学校 特別支援教育校内委員会

特殊教育から特別支援教育へ

- これまで「特殊教育」と呼ばれていたものが、平成19年度に、支援の対象を広げ「特別支援教育」として大きな転換が行われました。
- これまでの「特殊教育」は、障害の種類や程度に応じて盲・聾・養護学校や特殊学級などの特別な場で教育を行っていました。
- 「特別支援教育」は、これまでの支援対象児に加えて通常学級に在籍する発達障害を持つ児童を含めて、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育を行っています。
- 学校だけでなく、医療や福祉、教育センターなどの関係機関とも連携しながら適切な支援を行っています。



特別支援教育の対象となる児童とは？ ※[]の数字は文部科学省の調査より

- 特別支援学級に在籍する児童
* 入級を希望する場合は、毎年6月までに学級担任に届け出てください。
専門的な検査結果をもとに話し合い、特別支援学級で支援を受けることができます。
- 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒〔全体の約 6.5%〕
LD, ADHD, 高機能自閉症, アスペルガー症候群などの発達障害をもつ児童やその傾向のある児童 ※資料参照
* 全職員で話し合い、適切な支援を行っています。
* スキルアップ教室(学習支援室)を活用して、少人数による支援を受けることができます。

豊崎小学校では

- 特別支援教育コーディネーターを窓口として、学校長を代表とする「校内委員会」が一人一人の児童に適切な支援を検討します。
- 特別支援教育に関して全職員が研修を行い、児童への支援を行います。
- 保護者との教育相談を通して、家庭と学校の連携をサポートします。
- 医療や福祉、教育センターなどの専門機関を紹介します。



気になることがあれば、担任または特別支援教育コーディネーターに相談してください

困り感を支えるためのチェックリスト

※ このチェックリストは診断のためのチェックではありません。子どもの傾向や特性を知り適切な支援を考
えるためのものです。家庭や学校での子どもの様子から、あてはまるものをチェックしてください。

○あてはまる △わからない ×あてはまらない

観点	内容	○△×
聞く	聞き間違いがよくある	
	個別に言われると聞き取れるが、集団では難しいことがある	
	指示したことの理解が難しいことがある	
話す	言葉につまることがよくある	
	思いつくままに話し、順序だてて話すことが苦手	
読む	自分の名前を読むことができない	
	「あ」と「お」、「わ」と「れ」の区別がつかない	
書く	○や△を真似して書くことが難しい	
	自分の名前を書くことができない	
	ぬり絵や線なぞり等を嫌がる	
計算する	数字を20まで数えることが難しい	
	指をさしながら、物を正確に数えることが難しい	
	「2つのあめと3つのあめを合わせるといくつ？」等の計算が難しい	
推論する	「どっちが大きい？」等の問題を間違えることがよくある。	
	クイズでとんちんかんな答えをすることがある。	
	勘違いがあったり、周りを驚かせるような考えをすることがある	

不注意	集まりなどで気が散りやすく、別のことをすることがある	
	指示されたことをすぐに忘れてしまう	
	整理・整頓が苦手である	
多動性	集まりなどで一人だけ立ち歩くことがある	
	集まりなどで、一人だけ話しつづけたり、お友達にちょっかいをかける。	
衝動性	順番を待たずに、勝手に列に割り込むことがある	
	自分の考えを押し通すことがある	
	攻撃的な言葉や行動をとることがある (トラブルが多い)	

社会性	友達と仲良くしたい気持ちはあるが、友達関係がうまく築けない	
	友達のそばにいるが、一人で遊んでいることがよくある	
	周りの人が困ってしまうようなことも気にせずと言ってしまう	
	決まりにこだわり過ぎて、友達の行為を大げさに注意したりする	
コミュニケーション	会話が一方的になったり、やりとりが続かなかったりする	
	冗談や皮肉がわからず、言われたままの言葉を受けとってしまう	
	会話の仕方が形式的で単調な声の高さで話したり、間合いがとれない	
興味 こだわり	きまった興味に熱中することがある (昆虫、読書、ゲーム、車など)	
	予定や時間割などの急な変更や変化をいやがったり、怒ったりする	
	とても得意なことがある反面、極端に苦手なことがある	

※チェックの○が少なくても、家庭や学校で子ども自身が困っている場合は担任に相談してください。